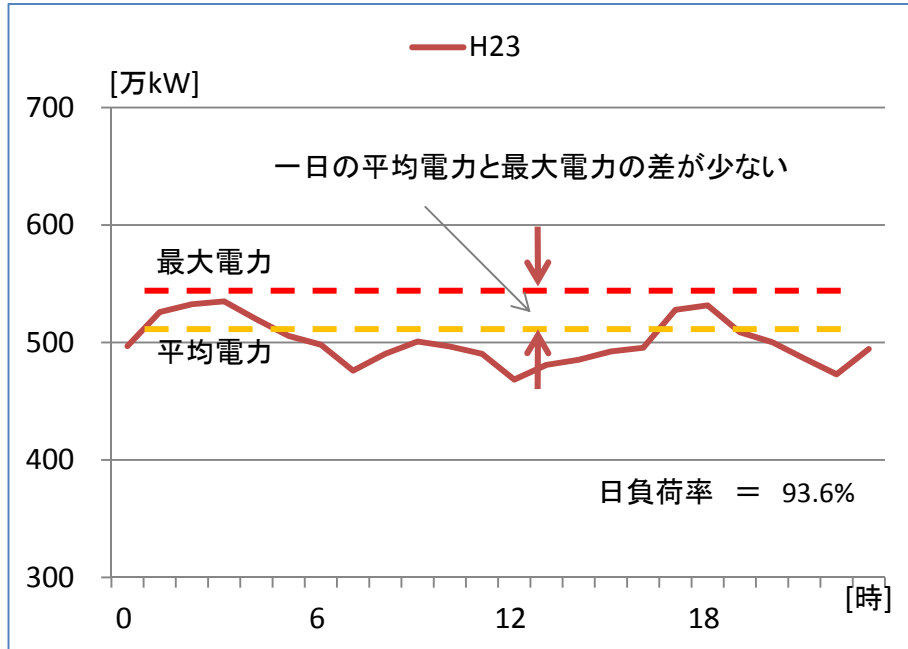


○北海道エリアにおいては、東日本大震災以前から年間最大電力の発生する冬季における負荷平準化が進んでおり、日負荷率については90%程度の高い水準を示していた。

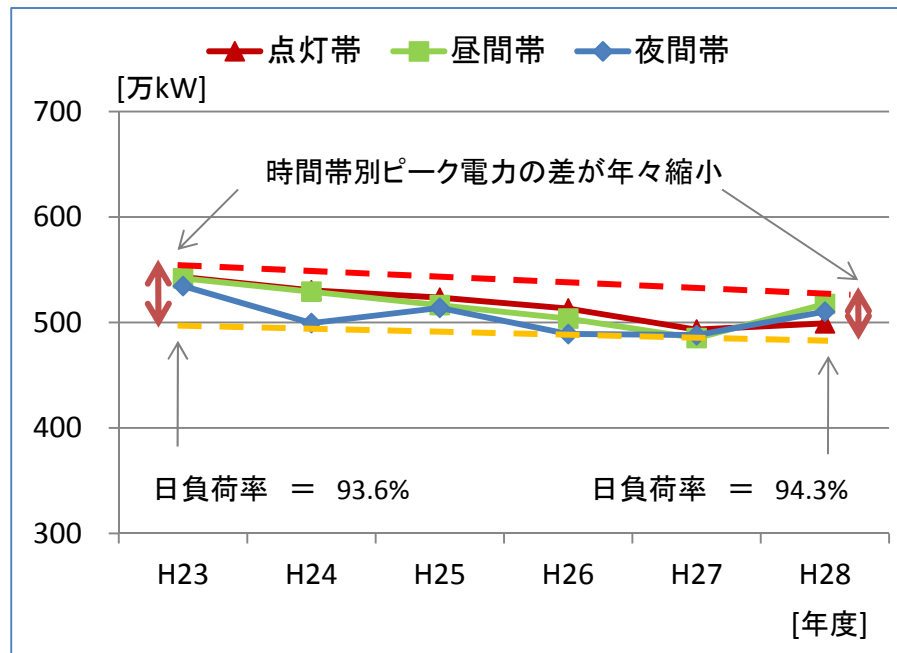
$$\text{日負荷率} = \text{一日の平均電力} \div \text{一日の最大電力} \times 100 \quad [\%]$$

○こうした中、東日本大震災以降、節電意識の高まりに伴う無理の無い節電や電機機器の省エネ機器への取替の影響などによりピーク需要は減少、合わせて平均電力と最大電力の差が縮小し、日負荷率は更に高い水準を示す傾向にある。

【冬季の最大3日平均電力発生日における需要状況】



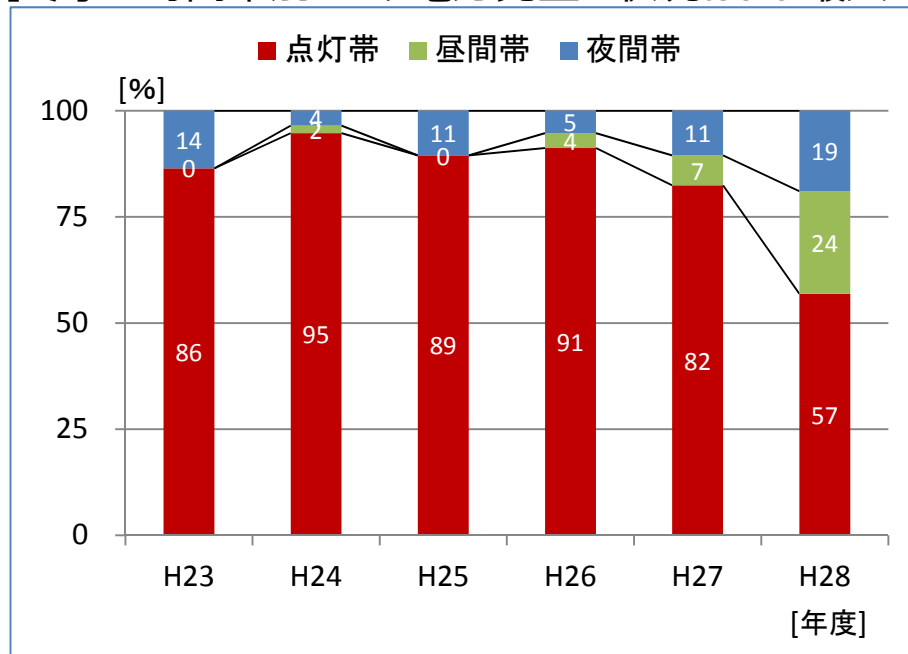
a.平成23年度実績



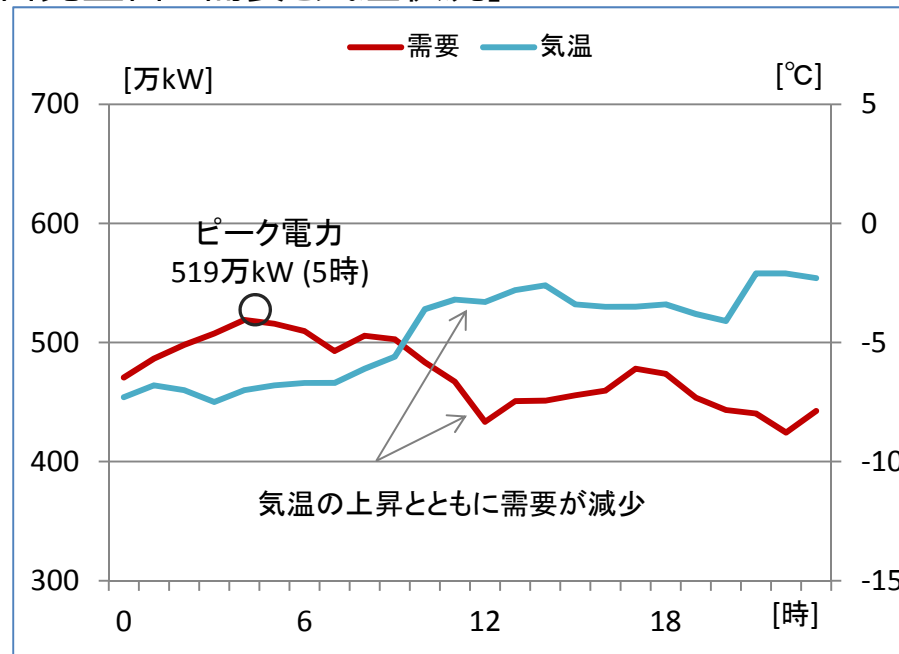
b.時間帯別ピーク電力の年度推移

- 震災以降も一日を通して需要レベルが同程度で推移していること、またその差が縮小傾向にあることから、ピーク需要は点灯帯、昼間帯、夜間帯いずれの時間帯においても発生しやすい状況にあり、平成28年度は気温や降雪（降水量）などの要因により、夜間帯、昼間帯にもピーク電力が多く発生したものと推定。
- なお、いずれの時間帯にピーク需要が発生した場合も需要レベルは同程度であることから、需給検証における見通しの断面において検討するピーク発生時間は、今後のピーク発生時間の推移を注視しながら、当面はこれまで通り点灯帯を対象に検討を進めることで考えている。

【冬季の時間帯別ピーク電力発生状況および最大1日発生日の需要と気温状況】



a. 時間帯別ピーク電力発生の割合



b. 平成28年度最大1日発生日 (2/3) の需要と気温状況